



🌿 森を自然の遊び場として思い切り遊ぶ子どもたち



## 森林とふれあいながら 成長する子どもたち

——森のようちえん全国ネットワーク



「森のようちえん」での自然体験について語る森のようちえん全国ネットワーク代表の内田幸一さん

🌿 森をささえよう

🌿 森と暮らそう

「森のようちえん全国ネットワーク」は、自然体験を基軸にした子育て、保育、乳幼児教育の活動を行う、全国レベルのネットワーク団体です。

ネットワークでは、「森のようちえん」活動への理解を広め、子どもの自然体験が豊かに提供できる環境づくりを行なっています。子ども時代から森林などの自然に親しむことが心身の発達に好影響を与えるだけでなく、将来の森林保全の一助につながることから、本年4月、フォレスト・サポーターズに登録しました。

「森のようちえん」は、もともとヨーロッパで生まれ発達してきたのですが、10年程前から、日本でも、幼児期における自然体験活動が心身の発達に良い影響を与えるという考えのもと、自然の中で小さな子どもたちを活動させようという動きが広がってきています。活動のスタイルはさまざまですが、森のようちえん全国ネットワークでは、自然体験を基軸にした子育て、保育、乳幼児教育等を全部ひっくるめて「森のようちえん」と呼んでいます。

お母さんたちが数人集まって子どもたちと一緒に散歩をするようなスタイルから始

まり、これに保育士や幼稚園教諭免許を持った専門家が加わる形、さらに自分で主宰して「森のようちえん」を立ち上げるケースがあります。また、一般的な幼稚園・保育園でも野外保育を行なう等「森のようちえん」に近い活動を取り入れるところが増えてきています。

平成20年に、「森のようちえん」を進める各地のメンバーで全国ネットワークを立ち上げました。現在、約90団体が登録しています。ネットワークでは、「森のようちえん」に関する情報発信、調査研究、指導者の育成、全国フォーラムといった交流事業



❄️ 冬には雪の森で、子どもたちは遊びながら四季を感じる



🌿🌳 木の枝やどんぐりなどを拾っておもちゃの材料にする

🌿 園内で伐採された樹木で作った積み木



### フォレスト・サポーターズ 4つのアクション 活動紹介

🌿 森にある枝やつる、木の実が楽しいクラフト作品に



🌿 長野県産の間伐材を利用して作られた「こどもの森ようちえん」の園舎

### 今日からやろう! 森のための 4つのアクション

#### 🌿 森にふれよう

#### 🌿 木をつかおう

の推進等を行なっています。

各団体では、それぞれ地域の特徴を生かして森と関わる活動を行っています。例えば、約30年前にスタートして活動している「こどもの森幼稚園」は、長野県の飯綱高原にあり、斜面がたくさんある森の中に幼稚園が作られています。

子どもたちは、自然の斜面を生かした手作りの園庭を走り回りながら遊んでいます。冬になれば園庭は雪に覆われるので、そり遊びを楽しむことができます。また、外に散歩に出かけたり、田んぼや畑のお手伝いをしたり、森や周囲の自然とふれあうことで、子どもたちはいろいろなものを発見し、一人ひとりが持っている感覚や感性が引き出されていきます。

園内で使っている積み木などのおもちゃは、幼稚園の庭で伐採された樹木を材料に作りました。また園舎の一部は地元信州の材で作られています。森とふれあうとともに、木を使うことも森と関わっています。

「森のようちえん」の目的は

あくまで幼児教育ですが、森の中で生きた樹木に触れ、集めた枝やどんぐりで木工作を行ったり、仲間と協力して木を切り、遊具を作るなどの体験により、子どもたちは森林の大切さを自然と理解していきます。森で遊んだ体験を持つ子どもと、管理された室内であらかじめ規格化された木材加工品しか見たことのない子どもとは、木という存在に対するリアリティがまったく違ってきます。「森のようちえん」は、今の子どもたちが大人になる十数年先、あるいはもつと将来にわたっての森林保全にとって、大きな意義があると思っています。

今、日本のあちこちで「森のようちえん」やそれに類する活動が立ち上がってきています。今後、ネットワークとしては、全国フォーラム等での各団体の活動の情報交流や、森をフィールドとした幼児教育を実践できる指導者の養成に力を入れ、日本の「森のようちえん」の発展に寄与することを通して、さらに多くの子どもたちに森林の大切さを伝えていきたいと思っています。